2013年度第2四半期業績のご報告

日本エマージェンシーアシスタンス株式会社

2013年8月9日

目　次

Ⅰ．EAJ事業内容のご説明

Ⅱ．2013年度第2四半期連結累計期間の決算報告

Ⅲ．各種施策の取組み状況のご説明

Ⅰ．EAJ事業内容のご説明

当社事業およびサービスの概要

事業	展開する主なサービスの概要	
医療アシスタンス	海外旅行保険の付帯としてのアシスタンスサービス	海外旅行保険加入者に対して、海外旅行中および出張中の医療事象発生時に、様々な医療アシスタンスサービスを提供
	事業法人向け医療アシスタンスサービス	事業法人や官公庁の海外駐在者などに対して、使用者責任としての企業の海外医療対応を支援するため、医療アシスタンスサービスを提供
	国際医療交流支援サービス	日本の高度医療を受診される外国の患者様へ医療ビザや医療通訳の手配を含む医療コーディネート、 国策の日本医療の海外輸出支援
	事業法人向けセキュリティアシスタンスサービス	海外でのテロや暴動を含むセキュリティ分野の危機管理支援、クライシスマネージメント **2013年度第2四半期より、サービスラインナップに追加**
ライフアシスタンス	クレジットカード会員向けコンシェルジュサービス	クレジットカード会社のカード会員に対して、国内外で高級レストランの予約や交通手段の確保などのコンシェルジュサービスを提供

Ⅱ. 2013年度第2四半期連結累計期間の決算報告

第2四半期のトピックス

- 売上高　995百万円（前年同期：989百万円）
  営業利益　13百万円（前年同期：60百万円）
  経常利益　5百万円（前年同期：42百万円）

- 海外出国者数については2月以降は減少している（4・5・6月は11%以上の減少）。しかし、当社の案件数は順調に推移し、全体の売上高は995百万円となった（前年同期比で若干の増収）

- ①円安による円建海外センターコストの増加、②サービス拡充のための先行投資による海外センター現地通貨建てコストの増加、③高機能通信機器導入による設備投資額の増加等による経費増加のため営業利益は13百万円、円安による為替差損の発生により経常利益は5百万円となった

- 当社の認知度向上、積極的営業活動により法人・大学との新規契約が順調に推移

- 国際医療支援事業分野において、当社が参画する一般社団法人Medical Excellence JAPANが、4月に新生MEJとして組織を拡充

第2四半期連結累計業績（単位：百万円）

	前年同期 （売上高利益率）	第2Q （売上高利益率）
売上高	989	995
営業利益	60 （6.1%）	13 （1.3%）
経常利益	42 （4.3%）	5 （0.5%）
四半期純利益	25 （2.6%）	2 （0.2%）

売上高

前年に比べ海外出国者数が減少している中、アシスタンスサービス提供数は順調に推移し、995百万円となった（前年同期比で若干の増収）

費用

-円安による海外センターのコストが増加
-タイセンターの24時間の並行運営、中国センターの人件費増加等により経費増加
-高機能通信機器の導入等の設備投資を実施することによりサービス体制強化

セグメント別業績ハイライト（単位：百万円）

医療アシスタンス事業の売上は、海外出国者数が減少したものの、アシスタンスサービス提供に関する売上は増収。ライフアシスタンス事業は、既存・新サービスの拡充により前年同期比で売上・利益ともに増加

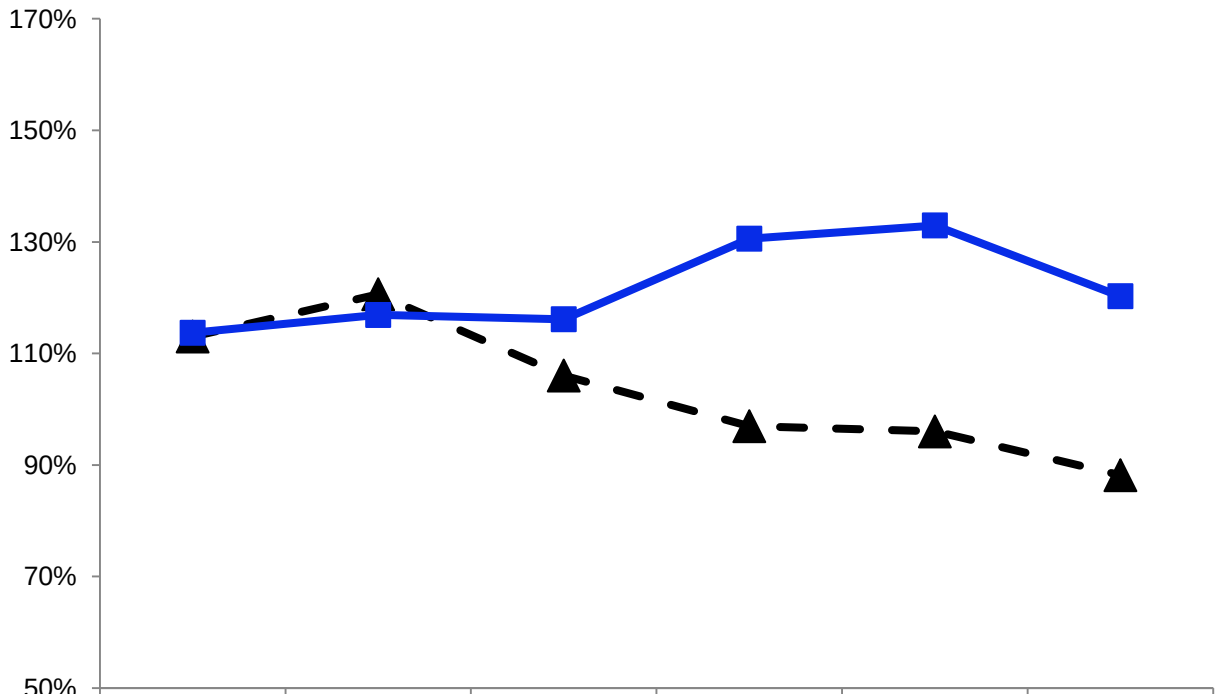
	前年同期		第2Q	
	売上高	利益	売上高	利益
医療アシスタンス事業	818	165	817	111
ライフアシスタンス事業	170	51	177	52
調整額※	-	△156	-	△151
P/L計上額	989	60	995	13

※ 調整額とは、各報告セグメントに配分していない全社費用のこと。セグメント利益は四半期連結損益計算書の営業利益と一致している

医療アシスタンス事業の概要

海外出国者数は減少傾向にあるが、当社案件数は前年同期比で増加

海外出国者数と案件数の推移（前年同期比）

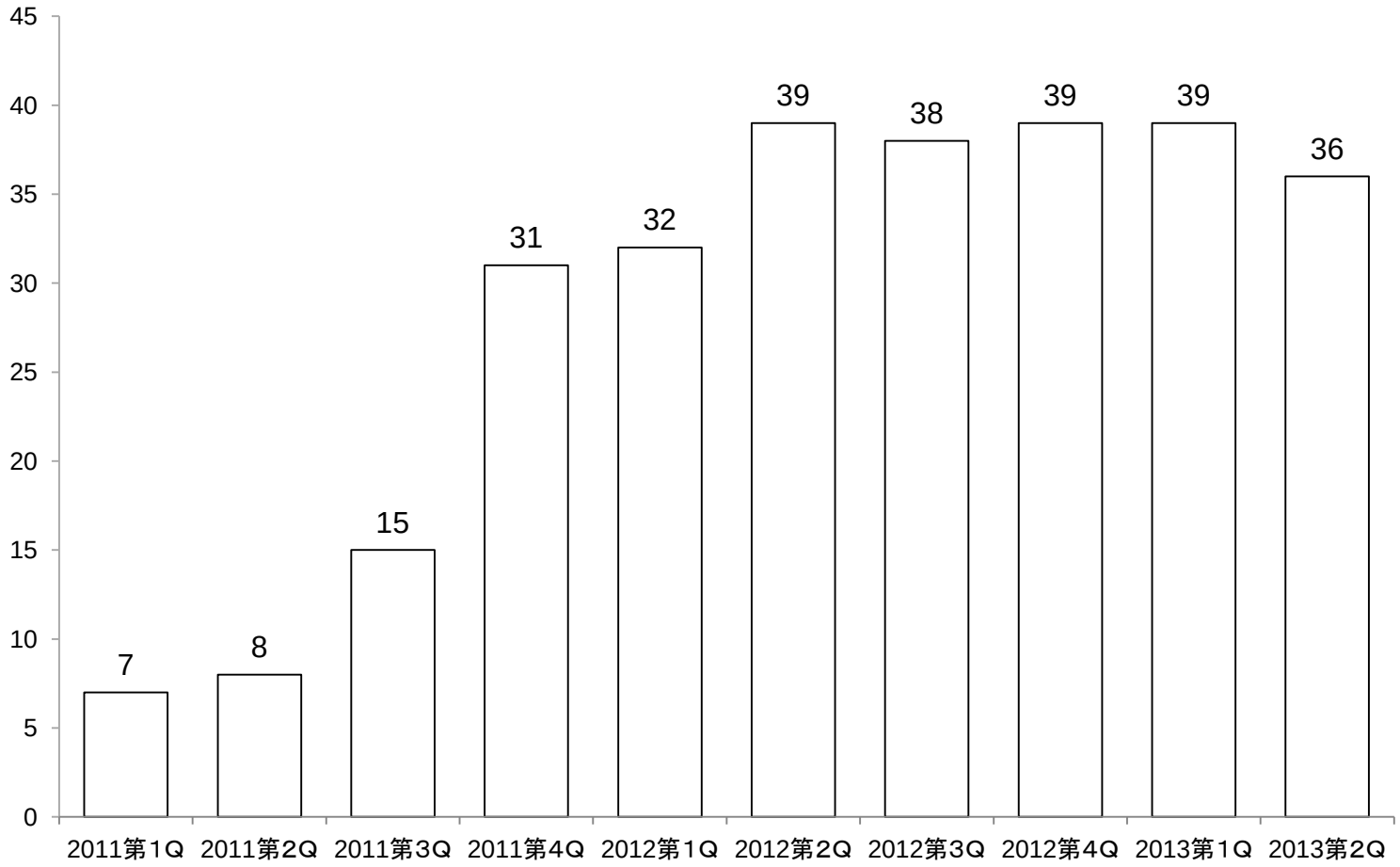


	2012第1Q	2012第2Q	2012第3Q	2012第4Q	2013第1Q	2013第2Q
海外出国者数	113%	121%	106%	97%	96%	88%
案件数	114%	117%	116%	131%	133%	120%

資料：海外出国者数は『平成25年　出国日本人数推計値』JNTOを参考とした。4月・5月・6月についてはJNTO推計値。
また、案件数は、今年度新たに契約したビジネスを除いた、既存ビジネスの対比

国際医療支援事業分野の外国人患者受入数は前年より増加傾向にある

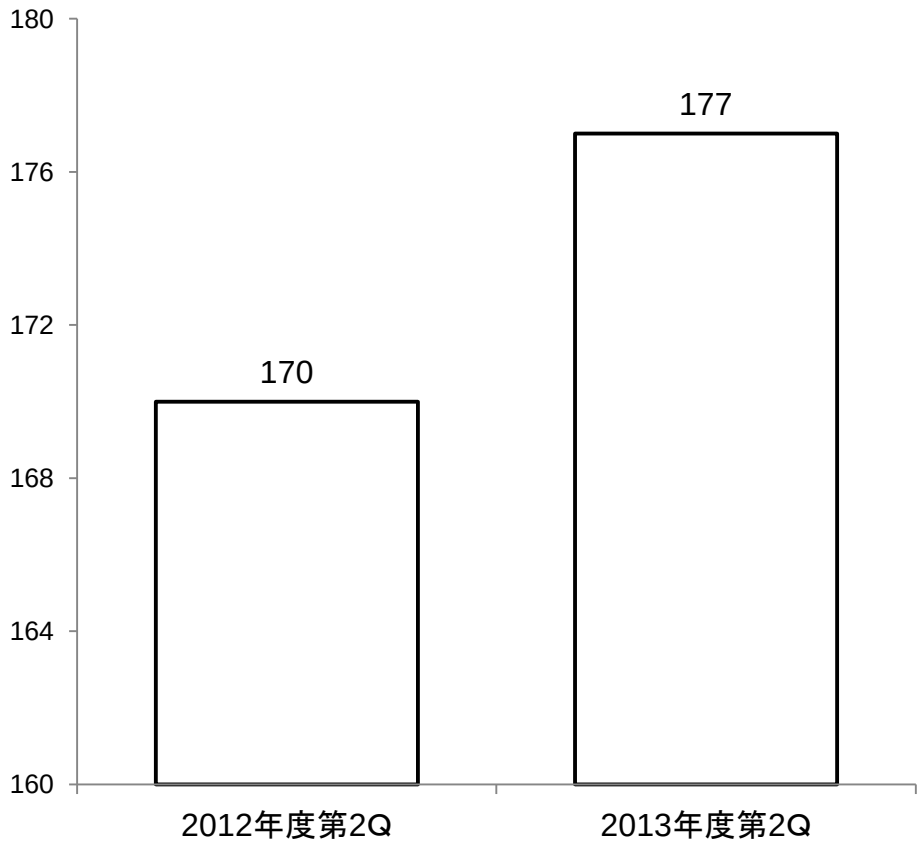
外国患者受入数の推移（単位：人）



ライフアシスタンス事業の概要

第2Q終了時点で、ライフアシスタンス事業の売上高は前年同期比で7百万円増加

売上高の比較（単位：百万円）



既存サービスの拡大及び第1Qからの新規サービス開始により前年同期比で売上が増加。

第2四半期連結貸借対照表（単位：百万円）

	前期末	（構成比）	第2Q末	（構成比）
総資産	1,052	（100%）	1,196	（100%）
流動資産	947	（90%）	1,064	（89%）
固定資産	104	（9%）	132	（11%）
流動負債	485	（46%）	540	（45%）
固定負債	9	（1%）	74	（6%）
参考：借入金残高	101	（9%）	219	（18%）
純資産合計	557	（53%）	581	（49%）

流動・固定資産
- -大型案件が発生したため、立替金、売掛金が増加
- -システム投資により固定資産が増加

負債
- -ビジネス拡大に伴う立替金の確保のため借入金が増加
- -高額の年間契約料の収受により前受収益が増加

純資産
- -円安により為替換算調整勘定が増加

通期連結業績予想（単位：百万円）

円安により海外センターの円貨建て経費、海外センターの現地通貨建て経費が増加する。下期も円安トレンドは続くと想定し、またビジネス拡大に向けて先行投資を実施する機会と判断し通期予算を修正（7月16日に開示済）

	第10期 実績	第11期 当初予想	第11期 修正後予想
売上高	1,892	2,082	2,000
営業利益	147 （7.8%）	165 （7.9%）	30 （1.5%）
経常利益	129 （6.8%）	155 （7.4%）	22 （1.1%）
当期純利益	75 （4.0%）	95 （4.6%）	12 （0.6%）
EPS	67.68	79.96	10.87

EPS(円)：1株当たり当期純利益

Ⅲ．各種施策の取組み状況のご説明

第2Qから第3Qの進捗状況

第2Qから第3Qの進捗状況は以下のとおり

第2Qの状況	第3Qの進捗状況
成長分野である国際医療支援事業のインバウンドとアウトバウンドの事業強化	**独自売上への着実なサービス提供と医療輸出関連事業への積極的な進出**
上場及びサービス提供実績による認知度向上に伴う営業力強化 →6月に東京大学と契約締結	**営業体制の強化による法人契約及び大学契約の更なる獲得** →7月に日立グループ、8月に筑波大学、お茶の水女子大学と契約締結
円安を原因とする海外コストの増加	**海外センターのコスト管理及び機動的な為替リスクヘッジを行うが、長期成長のための人材、システム構築への積極投資は継続**
他成長企業と同様、ステークホールダーとしての株主対応は、将来の株価上昇（キャピタルゲイン）にとどまる	**株主還元策として期末の配当を取締役会で決議** →株主様にはEAJの成長支援者として他ステークホールダー同様に会社の収益を配分　期末配当　1株10円を見込む

各種施策に関する主要NEWS RELEASE

東京大学と大学等学校法人向け危機管理サービス契約を締結

NEWS RELEASE

2013 年 6 月 11 日

各位

会社名　日本エマージェンシーアシスタンス株式会社
代表者名　代表取締役社長 吉田 一正
（コード番号：6063 大阪証券取引所JASDAQ）

日本エマージェンシーアシスタンス、東京大学と
大学等学校法人向け危機管理サービスに関する契約を締結

日本エマージェンシーアシスタンス株式会社（略称：EAJ、本社：東京都文京区、代表取締役社長：吉田一正、URL：http://emergency.co.jp/）は、2013 年 5 月 1 日に国立大学法人東京大学（所在地：東京都文京区）と大学等学校法人向け危機管理サービスに関する契約を締結いたしましたので、お知らせいたします。

東京大学は、入学直後の学生が東京大学を離れ、ボランティア・就業体験・海外交流などの自己啓発・自己研鑽を行う教育活動プログラム“FLY Program”を今年度より開始いたします。FLY Program の開始にあたり、当社は、大学等学校法人向け危機管理サービス「OSSMA（※）」を通し、大学向けの危機管理および派遣学生向けの危機管理の両サービスを提供いたします。

本年 5 月 17 日に発表された政府の成長戦略第 2 弾の中には、「世界に勝てる大学改革」が挙げられています。また、グローバル人材育成事業は、我が国の重要政策の一つです。そのため、各大学の海外交流活動は、今後、活発化することが予測されます。当社は、大学および派遣留学生の海外での安全・安心のための様々なサービスを提供し、将来を担う学生のグローバル人材化に貢献してまいります。

※OSSMA とは、Overseas Students Safety Management Assistance の略

■提供するサービスについて

大学等学校法人向け危機管理サービス OSSMA は〈大学向け支援サービス〉と〈派遣留学生向け支援サービス〉を併せたサービスです。具体的に以下のサービスを提供します。

〈大学向け支援サービス〉
① 重大事故発生時の対応サポート：
・重大事故発生時に、事故対策本部設置と運営に関して支援とアドバイスを提供し、併せて海外危機管理の高い知見を有するマスコミ対応専門家の紹介も行います。

日立グループの海外における緊急医療サービス業務を受注

NEWS RELEASE

2013 年7月 17 日

報道各位

会社名　日本エマージェンシーアシスタンス株式会社
代表者名　代表取締役社長 吉田 一正
（コード番号：6063 東京証券取引所JASDAQ）

日本エマージェンシーアシスタンスが
日立グループの海外における緊急医療サービス業務を受注

日本エマージェンシーアシスタンス株式会社（略称：EAJ、本社：東京都文京区、代表取締役社長：吉田一正、URL：http://emergency.co.jp/）は、株式会社日立製作所（東京都千代田区、代表執行役執行役社長：中西宏明、以下「日立製作所」）より「海外緊急医療サービス」に関しての業務を受注し、2013 年 7 月からその提供を開始いたしました。

記

1．業務受注の背景
日立製作所は、海外業務渡航者が、その渡航中に病気やけがといった緊急事態に陥った場合に、必要な治療を迅速、適切に受診できるとともに、現地の医療水準が不十分であるような状況においては、航空機による国際医療搬送を通じて、適格な医療機関で国際水準の治療を受診できる緊急医療体制を整え、これを日立グループ所属企業全体に展開いたしております。 このような支援体制は、海外渡航における病気やけがの発生を重大なビジネス・リスクのひとつとする危機管理コンセプトに基づくものでありますが、同社は、そのコンセプト実行の先駆者的な存在です。

この緊急医療体制は、日立製作所本体と実際のサービスを提供するアシスタンス会社との緊密な連携のもとで運営されますが、今般、当社がそのサービス提供アシスタンス会社として指名されました。

当社は、日本人ならびに日系企業へのアシスタンス提供に特化する日本のアシスタンス会社として、日立グループのさらなる海外展開をサポートして参ります。

2．当社受注業務の概要
①医療機関の紹介：
医療機関の紹介・受診手配
②医療通訳サービス：
医師等と患者の間の医療通訳
③治療費・入院費の支払保証：
入院費・搬送費の支払保証
④治療状況のモニタリング：
現地で緊急入院した場合、主治医と連絡をとり状況を報告

本説明資料に含まれる将来の見通しに関する部分は、現時点で入手可能な情報に基づき判断したものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。それらの不確実性には、業界ならびに市場の状況、金利、為替変動、国内外の事業に影響を与える政府の法規制といった国内及び国際的な経済状況などが含まれますが、これらに限定されるものではありません。今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社は、本発表に含まれる「見通し情報」の更新・修正をおこなう義務を負うものではありません。

また、当資料は投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する決定はご自身の判断において行われるようお願いいたします。

Copyright ©Emergency Assistance Japan Co., Ltd. All Rights Reserved.

日本エマージェンシーアシスタンス株式会社